

平成 25 年度 榴岡図書館利用者懇談会 実施報告

- 1 日時 平成 26 年 3 月 15 日（土） 13 時 30 分～15 時
- 2 出席者 ご利用者 : 2 名
榴岡児童館 : 1 名
ボランティア : 2 名（内訳：おはなし会ボランティア 2 名）
榴岡図書館 : 榴岡図書館長
他 4 名

- 3 内容 1. 開会
2. 挨拶 榴岡図書館長
3. 自己紹介
4. 平成 25 年度の取組み 【配布資料 1】
5. 榴岡図書館へのご意見・ご要望
6. 閉会

4 榴岡図書館へのご意見・ご要望

ご出席者の運営評価、皆様から頂戴しましたご意見・ご要望は以下の通りです。

（1）榴岡図書館の自主事業へのご意見・ご要望

○事業の実施回数について

- ・製本講座など、もっと事業の回数を増やしてくれると嬉しい。ただ、そのときそのときの事業は知っていたが、今日 1 年分をまとめて見てみて、多くの事業を実施しているのだな、ということがわかった。市民センターも年間の事業として 22～23、コマ数として 100 コマ程度の事業を実施し、休館日にもまち歩きなどを実施している。貸し部屋は 13 部屋、利用者は年間 11～12 万人となり、なかなか大変である。大変さがわかるため、もっとやってほしい、というのは要求しすぎかとも思うが、現在榴岡図書館で実施している事業にはリピートしたくなるものが多いので、あえてお願いしたい。

○本の福袋について

- ・もっと数があると嬉しい。子どもによって、性格の違いや、読める子がいたり読めない子がいたり、色々な要素があるため、本をすすめるのは難しい。また、本を読んでいる子にも、普段とは違う本をドキドキしながら読んでほしい。別の本もすすめたいと思っているので、福袋という形はいいと思う。
- ・大人になると読む本のジャンルがかたまってくるので、大人にとってもいいと思う。

○選書サポーターについて

- ・選書サポーターはすごくいいと思う。児童館でも実施してみたい。受け身の事業だけではなく、子供たちが参加して取り組める事業は何かを生み出すと思うので良いと思う。児童館にも中高生は来るので、ブックリストをぜひ頂きたい。
- ・以前高校の図書館に勤めていたときに、子どもたちに本の宣伝を書いてもらい、図書館ニュースに掲載すると貸出率がアップしていた。そのような効果もあると思うので、ぜひ選書サポーターは続けてほしい。

【回答】

- ・選書サポーターは、本に親しんでもらうということをコンセプトに実施しております。自分たちが何かを作り、発信する、という参加型の図書館活動です。選書サポーターでは最終的な成果物としてブックリストを発行しております。中高生の目線というのも新鮮なのではないかと考えております。昨年度は読書の参考にしてもらうため、市内の全中学校に配布いたしました。今後も、コーディネーターとして仕掛けづくりのお手伝いをしていきたいと考えております。

○事業内容について

- ・おはなし会を卒業した位の年齢の子ども（小学生など）がもっと借りに来てくれるよう、夏休みや冬休みに小学生向けのイベントがあれば良いと思う。
- ・児童館に来るお母さん方は、癒されたいという人が多いので、そんなお母さんを癒す朗読会があるといいと思う。大人の人を対象にした読み聞かせや、朗読は癒される。小さい子ども連れのお母さんもいるため、子どもが泣いても大丈夫なようにしてほしい。
- ・社会学級の方やボランティアさんに、お母さん方を対象とした「読み聞かせ」や「朗読会」をしていただけると良いと思う。学校にもスクールカウンセラーがいるが、あくまで知識によるカウンセリングなので、お母さん方がカウンセリングを受けてスッキリしているかという点、疑問が残る。また、“カウンセリング”となるとちょっとかしこまってしまうところもあるようなので、本を読んで気持ちを癒していただくといいと思う。スクールカウンセラーだと少し堅い感じがするので、ストーリーテリングや、朗読会の方がいいのかもしれない。
- ・子どもたちは、夏休みの宿題の自由研究や読書感想文について、8月の夏休み終わりの時期に悩んでいる。そういうときに図書館の助けがほしい。

○図書館事業等の広報について

（榴岡図書館は、宮城野区、青葉区、若林区の間にあり、市政だよりの効果が小さいこと、ロコミの効果が結構あることとお話した。また、本を借りてまっすぐお帰りになる方にも効果的な宣伝方法は何があると思われますか、という図書館からの問いかけに対して）

- ・確かに普段は予約して本を借りるだけ。今回の利用者懇談会の自主事業紹介を聞いて初めて知ったことが多い。貸出だけが仕事ではないのだと感じた。
- ・河北新聞が効果的だと思う。特に男性は新聞が主で市政だよりはあまり見ない。お母さんは市政だよりを見る。チラシ、ポスター、新聞、が効果的なのでは。
- ・まずは興味をひくことが大事。カウンターの上にあると目に入ると思う。
- ・事業に関連する資料の上に置く（上から吊るす）、書架の縁に、事業の案内を載せたラベルを貼る、なども効果的なのではないかな。
- ・エレベーターの中もいいのでは。エレベーターの前も、エレベーターを待つ時間に見てもらえと思う。
- ・タウン誌などを活用しても良いのではないかな。

(2) 図書館サービス全般へのご要望

○おはなし会・おはなしのへやについて（おはなし会ボランティアの方々より）

- ・おはなし会の子どもたちが小学生になると離れていくのが残念。小学 1～2 年生をひきとめられると良いと思うので、大きい子どもにも本を読んでもらう機会をつくってあげたい。
- ・ストーリーテリングもできるし、実際に行っている。先日も将監の社会学級でストーリーテリングを行った。題材は子ども向けを使用しているが、大人向けとして実施しており、実際に参加している人たちは癒されているようだ。今後、榴岡図書館をバックボーンにもっと活動していきたい。
- ・職員の気持ちが利用者にも伝わる。すごく明るく接してくれる。子どもたちも、にこにこしておはなし会にやってくる。おはなし会の人数も増えた。また、おはなし会で子どもがざわついたときに、お母さんが“私が聞きたいんだから静かに”などと言うようなときもある。良いサイクルで回っている。今後もっと関わっていきたい。
- ・おはなしのへやは、もう少し広くて明るい方が良い。入口ももう 1 つあると良いと思う。部屋自体はとてもきれいに整頓されていて、気持ちのいい空間になっている。

【回答】

- ・榴岡児童館様と榴岡図書館で連携事業を実施し、そこにおはなし会ボランティアの方々にご協力いただくことや、榴岡児童館様とおはなし会ボランティアの方々の連携事業に榴岡図書館が本を提供することなど、いろいろなことが可能であると考えております。おはなしのへやで行うおはなし会だけがおはなし会ではありません。企画、運営において、柔軟に対応してまいります。「待つ図書館」から「出る図書館」を目指していきたいと考えております。
- ・榴岡図書館では、少々子どもたちが騒ぐことは覚悟しています。子どもたちを抑え込めば、誰も来なくなります。どちらかと言えば、お母さんの方が“あそこはうるさい場所だ”と反応します。閲覧席などで親子が読み聞かせすることも規制しておらず、このことについては他のご利用者の方からも苦情は出ておりません。走り回るなどのことは注意しますが、図書館は本を通してのふれあいの場所でありたいと思っております。

(3) その他ご意見等

○ご利用者の貸出履歴について

- ・利用者毎の、借りた本のデータは残るのか。

【回答】

- ・個人情報となるため、残りません。

○榴岡図書館の認知度について

- ・図書館の場所がわかりにくい。図書館がビルの中にある、というイメージが無い。このビル全体が市民センターというイメージがある。市民センターしかないのでは、という人もいる。発行物に図書館の地図が載っていると良いと思う。また、ビルの外に何か表示物を置くということとはできないのか。
- ・仕事でも個人的にもお世話になっている。市民センターに来る人で、市民センターは知っているが、図書館は知らないという人もいるし、その逆もある。お互いにここを知っていただく努力をしないと、と思う。市民センターは、1階の展示フロアでコンサートを開催するなど、何かを行うことによって、存在を知ってもらっている。1階の展示フロアでの事業は、ざわざわしていて気楽にのぞけるところがいい。榴岡図書館でも30周年記念事業で活用してもらったが、あの場所でおはなし会や、おすすめの本の展示を行ってはどうか。市民センターでは講座に関する参考文献をリストでいただいて紹介すると、次の回で話題になっている。図書館といい同居人でいたいと思う。また、図書館の人は大人の固まっている見方の外からおすすめの本を教えてくれる、本のソムリエであると感じている。もっとそれを表に出すと良いと思う。

【回答】

- ・ビル全体が複合施設であり、民間企業も入っているため、仙台市の施設だけ目立たせるということとは、なかなか難しいところがございます。また、ビルの景観の関係もございます。正面玄関横のブックポストの表示は大きくしてみました。実はこちらも苦情が出ないか心配なところ。印刷物にビル全体の写真を載せるなど、工夫してまいりたいと思っております。
- ・場所のわかりにくさの他にも、図書館周辺の環境として、子供を1人で出すことには不安を感じる方もいらっしゃるかもしれない、という問題がございます。親子で参加できるような事業を実施していきたいと考えております。“親が本に関心がある場合、子どもも本に関心を持つ”というデータもございます。まず、子どもの前に親に対し、本を理解してもらえるようにPRしていきたいと思っております。